令和４年度WAM助成事業
プレイセンターにじっこ活動報告書

親も子も地域も育つ

プレイセンター方式 子育て支援事業

2022.4～2023.3

にじっこ紹介動画

認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ぷれいおん・とかち

運営団体

認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ぷれいおん・とかち

「ぷれいおん（play on)」には「もっと遊ぼう！」「みんなで遊ぼう！」という想いが込められています。「遊ぶ・体験する」「共感する」「つながる」の3つを柱に、ぷれいおん・とかち正会員が企画・運営をし、地域の子育ち親育ち拠点として幅広い活動を行っています。

子どもから大人までの異年齢・多世代での「あそび」を中心とした活動を通じて、豊かな子どもの世界、子どもの育ちを温かく見守る地域社会をめざしています。

沿革

1973年	「十勝おやこ劇場」として創立
1988年	「帯広西おやこ劇場」に分割
2006年	「NPO法人子どもと文化のひろば　ぷれいおん・とかち」設立
2018年	**・プレイセンターにじっこ事業開始** ・「認定NPO法人」認可取得
2020年	・(一財)非営利組織評価センターによる 「グッドガバナンス認証」を北海道で初めて取得 ・令和2年度子どもと家族・若者応援団表彰 「子育て・家族支援部門」内閣府特命担当大臣表彰受賞

ぷれいおん・とかち会員数

【正会員】146世帯
【サポーター会員】個人84名/法人・団体34件
※2023年3月現在

ぷれいおんHP

事業内容

芸術文化体験事業	生活文化体験事業	子育て支援事業	地域ネットワークづくり事業	広報誌発行事業
・人形劇、コンサート等公演主催	・アート、表現活動 ・森のあそび場 ・子ども参画 ・キャンプ、宿泊企画	・プレイセンターにじっこ ・帯広ファミリーサポートセンター事業 ※帯広市委託事業	・土曜地域開放 ・森のこどもらんど ・会員交流事業	・コノコト発行

目次

1.はじめに　2
2.事業概要　2
3.事業内容・実績・成果　3-11
あそびセッション　3
学び合い　4-6
子育て講座　7
子育て相談会　8
森のにじっこ　8
スタッフ研修事業　9
地域ネットワーク事業　9
預かり合い　10
赤ちゃんの日　10
その他：自主運営　11
4.まとめ　12
5.メディア記録　13
6.メンバーの声　14-18

1.はじめに

《子どもを真ん中にみんなの居場所》～今期のぷれいおん・とかちの活動テーマです。私たちの思い描いている「子ども真ん中」は、一人一人の子どもたちの最善の利益が守られるように、多世代で学び合い支え合う、一つの大きな円陣です。

私たちの祖先は、アロ・ペアレンティング（群れの中で共同で子育てをすること）で繁栄してきたと考えられています。孤立した孤独な環境では子育てはできないのです。だから〈みんなで子育て！〉。

一人一人が安心できる環境と、メンバーのニーズや主体性を大切にしながら、工夫の余地がたくさんある活動を目指しています。にじっこの活動を通じて、子どもの成長過程を見守る目や手や心が備わり、やがて我が子と同じように周囲の子どもたちへも愛着が生まれてくる。誰かの役に立つ経験が自信になる。子どもたちがよりよく育つ場になる。子育ち親育ちが難しい社会のはざまで、こんな場所があったらいいな、を形にしてきた活動です。

この3年間はWAM助成事業として、プレイセンターにじっこの充実した活動を支えていただきました。今後ますます地域の中で安心して子育てができる居場所への理解や共感の輪が広がるように、この冊子が役立つことを願っています。

認定NPO法人子どもと文化のひろば
ぷれいおん・とかち
理事長　今村江穂

2.事業概要

プレイセンターは、“家族が一緒に成長する”という理念のもと、ニュージーランドで60年以上の歴史を持つ「親たちによる幼児教育の活動」。子どもも親も楽しみながら共に成長していくことを目指し、0歳から就学前までの子どもに「自分で選ぶあそび」を、親に「親のための学習」を提供し、子どもと親の両方を支援する。

≪あそび≫

“あそび”という言葉を、プレイセンターでは子どものあらゆる自発的な活動を指す言葉として使っている。子どもはあそびを通じて、感情や想像力を発達させ、言葉を覚え、友達を作り、世界について学ぶ。プレイセンターでは、子ども自身がやりたい時にやりたいあそびを選ぶことができる。

≪親のための学習≫

親がプレイセンターの理念を学び、子どもたちのあそびをサポートするために必要な知識や方法を身につける。誰もがみんなに役立つ何かを持っているという考えに基づき、お互いの経験や感情を持ちよる、参加・協力・実践型の学び合いの場である。

≪プレイセンターの運営≫

プレイセンターは親たちによって運営されるが、無理なく楽しく進められるよう、子育ち親育ちに関する専門知識を学んだスーパーバイザーがサポートする。参加するすべての大人が協力し合い、みんなで場づくりに関わることを目指している。

プレイセンターにじっこ

日時：毎週水・金曜日　10:00 ~13:30
会場：ぷれいおん・とかち
　　帯広の森・はぐくーむ、他
対象：未就学児の親子（会員制）
会費：月1,100円
　※非課税世帯は半額
　※ぷれいおん・とかちにも同時入会

#ぷれいおん

3.事業目的・内容・実績・成果など

あそびセッション

スーパーバイザー（以下ＳＶ)の支援のもと、親が子どものあそび環境を整え、遊ぶ様子を観察し、終了後にふり返りを行う。

実施回数　50回／参加人数　延べ 700人

一斉に同じことをして遊ぶのではなく、用意したあそびコーナーで各自好きなことを選んで遊ぶスタイルが基本。お外に行きたい子は、散歩に出かけて花壇のベリーを採って食べたり、水たまりで遊んだり、近くの公園の砂場やすべり台、冬は雪あそびやそり滑りなどもした。絵の具や小麦粘土遊びも積極的に取り入れ「家では準備や片付けが億劫に感じてしまうことも、みんなでやると楽しい」という声が多く聞かれた。

複数の親子で一緒に遊ぶことについて、「母子一対一ではなく、みんなで子どもたちを見合うスタイルがとても良い」「よその子が遊んでいる様子を見るのは刺激があっておもしろい」などの声があり、子育てを楽しむ要素となっている。

また子どもにとって良いと感じていることとしては「親がおおらかでいられることで、のびのびと自由にやりたいことができる」「他のお友だちに刺激を受けながら楽しんでいる」「ケンカもたくさん経験できる」「信頼できる大人がたくさんいるという安心感がある」などの声があった。親が子どもを観察する目も養われてきて、「わが子は毎回同じおもちゃで遊ぶけど、関わってくる子や大人が変わることで少しずつ遊び方に違いが出ていておもしろい」などといった発見もあった。

参加する子どもの年齢は１～３歳が中心だが、赤ちゃんも1～2名参加があった。他の参加者から「赤ちゃんが居てくれることがありがたい。子どもたちは赤ちゃんが大好きだし、大人も癒される。ママのリフレッシュのためにも参加して欲しい」という声があった。また幼稚園の長期休暇にはきょうだいのお兄ちゃん、お姉ちゃんも一緒に参加してくれている。異年齢で遊べる空間、多様性が喜ばれる環境であるように、今後も配慮していきたい。

エピソード

（Sちゃん）プレイセンターに来ると、すぐに遊び始めるのではなく、まずお友だちがやっていることをじっと観察していたSちゃん（それも大切なあそび）。小麦粘土を初めて見た時は嫌がって触らず、ママは、この子は小麦粘土はしない、と思い込んでいたところ、それから数ヶ月後に出してみると、その日は小麦粘土コーナーでずっと楽しそうに遊んでいた。一度嫌がったことでも少し経ってからまたチャレンジしてみるのは大事だなぁ、と学んだママ。最近では、仲良しのお友だちと一緒になら、やったことのない新しい遊びにもチャレンジするようになってきた。

学び合い

プレイセンター協会のテキストなどを用いてＳＶの支援のもと、対話形式で親同士が学び合う。2グループに分かれて子どもを託児し合う。他、運営計画を立てる総会を実施。

月	内容	場所	参加組・人数
4月	実習：　子どもの観察実習①	ぷれいおん	9組20人
5月	DVD「あそびの中にみる１歳児」視聴	ぷれいおん	5組10人
6月	テキスト：　リーダーシップについて	ぷれいおん	7組15人
7月	子育て講座「性教育」のシェア会	ぷれいおん	11組20人
8月	テキスト：　プレイセンターの理念	ぷれいおん	6組13人
9月	＊にじっこ総会＊	近くの公園	13組27人
10月	テキスト：　プレイセンターのあそび	ぷれいおん	6組14人
11月	実習：　子どもの観察実習②	ぷれいおん	7組14人
12月	子どもの権利	ぷれいおん	12組27人
1月	テキスト：　子どもの安全と衛生	ぷれいおん	8組16人
2月	実習：　ラーニングストーリーを書く	ぷれいおん	9組18人
3月	テキスト：　センター運営に必要な実践的技術	ぷれいおん	12組26人
合計			12回　延べ220人

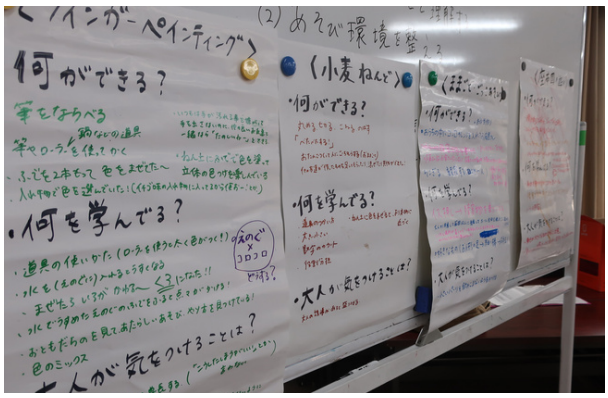
参加者は「学び合いの時間が設けられていることが素敵」と受け止めており、「様々な意見を聞いたり、自分の考えをアウトプットしたりでき、勉強になった」と、自分の子育てをふり返る機会になっている。

子どもを託児し合うことについては、「30分間の母子分離でリフレッシュできた」「母子分離は少し勇気が必要だったけど、やってみることで子も私も成長できた部分があった」という声の他「親の方が、離れることに不安があり（ずっと泣いてたら嫌だな、託児後の大泣きやかんしゃく、ぐずりなど嫌だな等）一緒に参加してもOKにしてもらえたことにホッとした」という声もあった。子どもの性格や成長段階に応じて、無理しすぎず母子分離を試してみる、仲間に頼る練習をしてみる機会になるよう、みんなで励まし合い、フォローしていきたい。

また、参加できなかったメンバーへの情報共有として、ＳＶが「親のまなびレポート」を作成し配布。９月実施のにじっこ総会では、メンバーの進行で、一人一人がこれまでの想いを語り合い、聴き合った。恒例となった思い出し涙、嬉し涙で、ティッシュペーパーがあちこち行き交う温かい総会を持つことができた。

メンバーの声

（Mちゃん） 自分が幼い頃にどんな遊びをしていたか思い出してみると、同時に当時の家族と過ごした懐かしい記憶が蘇ってきて、大人になった今も楽しかった記憶としてすごく残っていると気づいた。子ども時代の毎日の経験ってすごく貴重だなぁ。子どもにたくさん遊べる機会や環境を与えたいな、そしてとにかくのびのび存分に遊んで欲しいな。



毎回の内容をＳＶがまとめ、「学び合い」に参加できなかったメンバーとも共有しています。

親のまなびレポート

実施年月日：2022/6/24　　担当：まりこ

テーマ：リーダーシップについて（テキストP.21-22）

リーダー？リーダーシップ？　あんま自分には関係なさそう…と思っちゃいそうなテーマですね。　そこで、まず各々がこれまでに出会ってきたリーダーを思い出し語ってもらうことにしました！

あなたが「いいな♡」と思ったリーダーについて教えて!!

色んなリーダー像が出てきたヨ♡

- チームワーク'と'楽しむこと'を大事にし、みんなに出番を作ってくれる（会社の上司）
- 「失敗しても大丈夫」というメッセージを絵本で伝え、安心して居られるようにしてくれた（小学校の先生）
- しばらく会ってなくても覚えててくれる。きめ細やかなフォローで助けてくれるし、チャンス（出番）も与えてくれる（図書ボランティアのリーダー）
- 機嫌や状況に左右されることなく常に一定。←メンタル、態度が（山登りのリーダー）
  ダメなことくり返さない　など）はちゃんと教えてくれる。
- 個々の事情に配慮しつつ、目標に向かってしっかり進めていく。ていねいで頼れる（ぷれいおんの先輩）
- 失敗も含めて任せてくれる。失敗してしまった時は尻ぬぐいしてくれる（職場の上司）

テキストより

◎リーダーシップとは？？ → 目標に向かって物事を進めていくこと。

◎リーダーシップのスタイル

- 独裁的リーダーシップ…個々のニーズに配慮せずにどんどん進めてしまう。
- 無干渉主義リーダーシップ…リードすることもなく指示を与えることもなく、グループがなすべきことが進んでいなくてもメンバーを励ますこともない。
- 民主主義的リーダーシップ…自由でオープンな話し合い、すべてのメンバーが意思決定に向けて同等の発言権を持つ。決定するのにふさわしい人が決定を下す。

↓発展型

- エマージェント・リーダーシップ…メンバー1人1人がリーダーシップの責任を持つ。それぞれの人の技術や能力がグループに生かされる♡

プレゼンターで目指すのはこれ

- リーダーシップは必ずしも1人のリーダーが担う必要はありません。
- 学習や経験によって誰もがリーダーになれます。

あなたはにじっこでどんなことを大事にしたい？

- 新しく入ったメンバーと前からいるメンバーとの橋渡し！
- お出迎え＆お見送り（入って間もないメンバーがしてくれて嬉しかったから）
- これまでの自分をふり返り、リーダーに対する規律値が高すぎたんだなと気づいた。
  リーダーへのハードルを下げ、リーダーの失敗を受け入れたり、メンバー側がリーダーに寄り添う気持ちも大事！
- 目標達成だけでなく個々人のニーズにも配慮できるようになりたい。
- ここでは自分は尊重されているなと感じ、仲間に手助け等頼ることもできる。自分も返していきたい。
- 議論が不明瞭な時は確認しながら進める（不明瞭だと心理的に離れていくから。そのままにしない）

これがそれぞれの"リーダーシップ"なのですね〜♡

親のまなびレポート

実施年月日：2022/10/26　　担当：マリコ

テーマ：プレイセンターの遊び（text p.10－12）

☆遊びは子どもの仕事です☆

小さな子どもにとって、遊びは仕事です。子どもたちは、世界について学び、あらゆる面で十分に成長した人間になるために、常に遊びを続けなければなりません。"遊び"とは、小さな子どものあらゆる自発的な活動ー動いたり、話したり、見たり、聞いたり、においをかいだり、味わったり、触れたり、探索したり、感じたり、創造したりーを指します。

あなたは子どもの頃どんなあそびが好きでしたか？

その他、雪遊び、通学路遊び　なども…

★参加者の感想★

自分が幼い頃にどんな遊びをしていたか思い出してみると、同時に当時の家族と過ごした懐かしい記憶が蘇ってきて、大人になった今も楽しかった記憶としてずっと残っていて…子ども時代の毎日の経験ってすごく貴重だなあと感じました。子どもに、たくさん遊べる機会や環境を与えたいな、そしてとにかくのびのび存分に遊んで欲しいな、と思いました。ー参加者の感想より―

あなたの子どもはどんなあそびをしていますか？？
プレイセンターでやらせてみたいあそびは何ですか？？

参考　本場New Zealandのプレイセンターで準備されている16分野別の遊び

積み木やブロック、大工あそび、絵本、おえかき、小麦粘土、砂遊び、水遊び、音楽、パズル、フィンガーペインティング、科学や自然遊び、料理、屋外遊び、ごっこ遊び、コラージュや工作遊び、etc.

やりたい！

★フィンガーペインティング（絵の具）
★小麦粘土×絵の具も
★大工あそび
★ごっこあそび
★座布団いっぱいあそび

↓

来月は、これらのコーナーを準備して、遊ばせましょう!!＋子どもたちの遊びの観察もするよ♡

子育て講座

日時	内容	場所	参加人数
6月8日	「子育ては自分育て」講師：道見里美氏	芽室町東めむろ コミュニティセンター	24人
7月7日	「性教育/まるまる育児」講師：高橋麻実氏	西帯広コミュニティセンター	13人
11月9日	「おもちゃの話」 講師：杉本英樹氏	ぷれいおん・とかち	9人
3月22日	「避難訓練/防災講座」 講師：高桑衣佳氏	ぷれいおん・とかち	27人
合計			4回　延べ73人

前年度は、ＳＶが乳幼児の親に受けて欲しいと考える講座を企画したが、今年度はメンバーからリクエストのあったものも実施した。

「子育ては自分育て」では、参加者が心の内に抱えている思いをシェアしあう時間があり終了後もっと語り合いたいという声から自主的なサークルが誕生した。

「性教育」はメンバーが中心となり企画実施。当日参加できなかった人もいたので、後日親の学び合いの時間で講演内容をふりかえったり、感想、疑問をシェアした。

「まるまる育児」は赤ちゃんのお世話が楽になる技術を学び、参加者からも「すべてのお母さんに知ってもらいたい」という声があった。この時に連携した助産師 渡部麻友子さんと「赤ちゃんの日」における協力関係を築くことができた。

「おもちゃの話」ではぷれいおんにあるおもちゃの魅力やあそび方についてヒントを得た。

「避難訓練/防災講座」は以前から要望のあった内容であり、「災害をイメージすることの大切さに気付いた」など参加者からも大変好評であった。今後も定期的に実施していきたい。

「子育ては自分育て」では自分自身を振り返る機会になった

「まるまる育児」では赤ちゃんの抱き方などを教わった

備品のおもちゃの魅力アップにもつながった

震度５強の想定で駐車場に避難するところまで実施した

子育て相談会

幼児教育専門家の協力のもと座談会形式で相談会を実施。２グループに分かれ、子どもたちは託児し合う。終了後は他グループの話題も共有する。

実施回数　６回／参加人数　延べ 108人

新型コロナ感染予防として夏場は屋外で実施「モヤモヤして悩んでいた気持ちがスッと前向きになった」「自分では考えつかない気持ちの切り替え方やプラスの考え方などアドバイスをもらえ、毎回相談して良かったと思える」など大変好評。また一対一ではなく仲間と一緒に相談できる場となっているため、「誰かの悩みも隣で聞いているだけで学びになる」「これから先の育児の勉強になる」という良さもあった。

今年度は新たに、子育て相談会のない月に、自分たちだけでお互いの悩みを聴き合う「最近どう？の会」を開始。普段の活動だけでは知り得なかった、仲間の一面や悩みなどを知ることができ、聴いてもらって気持ちが落ち着いたり、誰かの経験が参考になったり、お互いの関係がさらに深まる場になっている。

森のにじっこ

協力：帯広の森・はぐくーむ

実施回数　24回／参加人数　延べ 360人

季節を通じて森へ通うことで自然の変化を五感で感じられる。「寒くなってくると外に出るのがおっくうになってしまうけど、にじっこのみんなとなら外に出ようという気持ちになれる」「自分も一緒に遊んで、毎回良い気持ちになったり、自然の中での発見があったりする」「森での活動、本当に楽しい！」などポジティブな声がたくさんあった。

また、森の中の遊具や施設内の遊び場もあり、その日の子どもの興味関心で色々選べる環境が良いという声もあった。

一方、「ヒヤリハットが一番多かったのは、森の日だった印象。森でのルールや帰りがけの気がゆるむ時にケガが増えることなど、今一度リマインドしたい」という提案もあり、ＳＶが中心になって周知していきたい。

エピソード

Kくん（2歳）：ぼっこ（木の棒）が大好きなKくんは、いろいろな枝を拾うのに夢中。気に入った棒をどんどん拾っていき、目の前にあった大きなぼっこを拾おうとしたら・・・取れない！（木の根っこでした）拾い集めたものを立体デッキ（遊具）のところに並べてお菓子屋さんごっこ。チーズそっくりな木片を見つけてきてまた並べる。しばらくそこで遊んだ後、他のお友だちにつられて森の中へお散歩に。そこでも心惹かれたものを拾い握っていたKくんは、先ほどの場所まで戻ると、森の中の拾い物をトッピングにしてまたお菓子さんが始まった。こんなに壮大で、宝物素材が無限な遊びは森ならではのこと。

スタッフ研修事業

「地域子育て支援拠点初任者研修」では、支援者の役割や守秘義務についてスタッフ間でも確認することができた。「子育て応援ブック解説＆活用法研修」では、参加者グループトークで地域の子育て支援センターの事例から学ぶことがあったり、発達や医療の専門家から学びを得た。この研修を機会に「赤ちゃんの日」をどのような方針、内容で進めていくかのアイデアにもつながった。「日本プレイセンター協会ＳＶ養成＆フォローアップ講座」では、プレイセンターやＳＶの役割についての理解を深め、実践をふり返る機会となった。また、3ヶ月に一度のペースで開催されている「全国ＳＶ交流会」（オンライン）に毎回参加。ホストも担い、テーマの設定とにじっこの事例紹介、他のセンターでの現状や課題を共有する場を主催した。他オンラインで参加できる研修会が増えており、積極的に参加した。

地域ネットワーク事業

子育て講演会「こども家庭庁で子育てはどう変わる？」 **共催：帯広市**
講師：日本プレイセンター協会理事長、流通経済大学社会学部社会学科 教授　佐藤純子氏
会場：とかちプラザ　大集会室／参加人数　会場６０名、アーカイブ５０名

４月創設の「こども家庭庁」において、プレイセンター活動でも重視している「子どもの権利、親の支援」などの取り組みが開始することを受け、今後どのように「こどもまんなか社会」を目指していけばよいか、行政や地域の皆さんと一緒に考える機会として開催した。ＳＶやメンバーによる「にじっこ活動報告」の時間も設けた。

感想をシェアし合う際には、子育て支援行政の方からの熱いメッセージもいただき、これから協働でまちづくりをしていくための大きな一歩となった。
※講演のアーカイブ視聴の申し込みは随時受け付けております。(視聴料500円)
※メンバーによる活動報告をＰ18に掲載。

参加者アンケートより

アンケートのすべてをぷれいおんHPにて公開しています。

・データで子どもの現状を示され、現実の厳しさを知りショックです。自分に何ができるのか考えます。
・貧困や虐待は自分には遠い存在なのかなと思っていましたが、身近な存在なのだと痛感。今後、こども家庭庁について興味をもって注目します。

広報誌「楽しく子育てプチマガジン　コノコト」

2022年11月発行／発行部数　4,000部

にじっこメンバーが編集委員を担い、「子育て中のママ/パパ」目線で作成。今年度は「子育て中のあなたへ」をテーマに、みんなで子育てする温かさ、楽しさを表現した。帯広市及び芽室町の乳幼児健診や、十勝管内の子育て支援センターや図書館などの公共施設、地域のお店やぷれいおんのイベントで無料配布中。

コノコト
vol.１～８
バックナンバー

預かり合い

・託児代（利用者負担）：1時間300円
・人　数：1回につき1人　・実施回数：月1回

昨年度に開始した取り組み。「子どもを預ける、預かるハードルを下げ、一人で子育てしない練習をする」ことが目的。今年度は4人が利用した。「日々みんなで見守り合っているし、会員制だから関係を深めやすい。にじっこだからできるチャレンジ。子どもを初めて預ける練習をするのにオススメ」「わが子の成長を実感できて嬉しかった」という感想があった。預かる側を経験したメンバーも「お母さんがいない中、いつも通り楽しんでいる様子にびっくりした」「子どもたちが泣き止む瞬間など見れて、今後自分の子が幼稚園に通いだしたらこんな感じなのかな？など学べることがたくさん」「チャレンジした子たちの成長に感動し、そのうち私たち親子もチャレンジしたいなと思った」などいつか預ける時に備えて心の準備をする機会になっているようである。

また、「まだ預けたことはないが、皆で子どもを預かることができるのはとても大切なこと」という意見もあり、１人で頑張る必要はないという意識が少しずつ育まれている。今後も預けることにチャレンジしやすい工夫を考えていきたい。

預けたメンバー(母)の声

私が不在でもみんなと楽しく遊べるようになるとは…。１年前はずっとわたしの膝の上から動かないくらい人見知り、場所見知りが強い子だった。ぷれいおんの温かいスタッフやにじっこメンバーと過ごす日々を重ねるうちに、安心できる場所と分かり、少しずつ本人にとって居心地の良い場所になっていったのだと思う。預かり合いを経験して、子どもの頑張りなど成長を感じられたこと、親が子どもを信じてあげる気持ちが持てたこと。もちろん一人の時間を持てたことも私にとってメリット。皆さんもぜひ預かり合いに挑戦してみて欲しい。

ママと離れた直後は不安そうな様子を見せています

我が子もよその子も、みんなで見守り合える関係が育まれていきます

楽しそうに遊んでいるようでも、ママがお迎えに来た時の子どもの表情に、みんな心を打たれました

赤ちゃんの日

※2022年9月～3月 WAM助成事業として実施
実施回数　10回／参加人数　延べ 112 人

孤独な育児環境を強いられるお母さんの居場所づくりに加え、情報過多で何を信じていいかわからないという不安解消のため、「赤ちゃんの寝かせ方」「離乳食」「わらべうた」「身体リフレッシュ」「女性ホルモンのこと」などテーマを決めプチ講座を開始。コロナ禍の影響もあり、子育てについての講座を受ける機会がなく、自力で情報を収集している方も多く、助産師から専門的な学びを得ることで「子育てをし合うお母さんと一緒に学べることが嬉しい」という声が多数あった。また「子どもと二人で家で過ごす日々に息苦しさを感じているので、この場に来ることが良いリフレッシュになっている」と、継続して通ってくださっている方もいる。

身体のこりを和らげるリラックスヨガ。赤ちゃんはすぐ近くでお留守番です

妊婦さんも参加。助産師から抱っこのしかたを教わりました

抱っこ紐の正しい使い方が分からないという方に向けて講習会を実施

その他の取り組み：自主運営

みんなで協力し合い、それぞれが場づくりに関わることを目指し、プレイセンターの運営にはメンバーの親たちが全員関わっている。ＳＶの伴走支援のもと、“楽しく無理なく、今の自分にできることを”をモットーに活動している。

ふりかえり

毎回活動後に15分程度、その日の感想や、「子どもたちの様子(良いところ、発見など）」「大人のキラリと光っていた瞬間」「子ども同士のトラブルと近くの大人の対応」「ヒヤリハット、事故」などをみんなで共有している。特にトラブルは子どもたちが成長できる大切なチャンスとして、オープンに語り合うようにしている。

代表制

4カ月交代で、３～４人の“共同代表”が役割を担う。活動後の「ふり返り」の進行をしたり、月に１度の代表会（ＳＶも参加）でやってみたい企画を提案したり、にじっこ内で課題になっていること等を話し合っている。今年度は「最近どう？の会」「おさがり交換会」「忍者ごっこ」「青空ヨガ」「森のハロウィン」「冬におすすめの本」「凧あげ」などを代表メンバー企画で実施した。

みんなで託児（見守り合い）

「学び合い」や「子育て相談会」「最近どう？の会（近況をシェアし合う会）」では、親が子どもと離れてゆっくり話せるように、2グループに分かれてお互いに託児を担い合っている。30分間という短い時間だが、「子育てはみんなで」を学ぶ大切な取り組みとなっている。

絵本・わらべうたタイム

絵本が好きなメンバーの提案で始まった取り組みが定着。子どもたちが絵本と触れ合う時間として、お昼ご飯の前にメンバーが季節や伝統行事、お気に入りの絵本などを選び読んでいる。

季節のテーブル（飾り棚）

子どもたちに季節を感じて欲しいと季節のテーブルを設置。メンバーが担当し、温かい空間づくりを担っている。毎回担当者の個性が表現されている。

その他役割

目に見える分かりやすい役割以外にも、「活動に参加する」「自分の体験をメンバーに話す」「メンバーの話を聴く」「子どもたちを見守る」「会場の準備や片付け」「笑顔を見せる」等、それぞれが大切な存在として場づくりに関わっていると考えている。

4.まとめ　事業を終えて～これから～

報告書を読んでいただき
ありがとうございます

　プレイセンターにじっこができて５年目となりました。スタート時から参加してくれているメンバーのお子さんHちゃんは春からは小学生になります！Hちゃんは、今でもにじっこで遊んだことを覚えていて「あの時はこう思ってたんだよ」と当時は言葉にできなかった気持ちをお母さんに語ってくれたりするのだそうです。お母さんはHちゃんとにじっこで過ごした楽しい思い出がいっぱいあって、2人目の子を授かった時、「これでまたにじっこに通える、と嬉しくなった」と。そして「第二子出産後１年くらい出て来られなかったけど、にじっこのグループLINEでみんなの様子を見ながら、自分には居場所がある、と思えていた」と教えてくれました。なんだか泣けました（涙）。

　この間、コロナで「孤独な育児」に拍車がかかり母子のストレスは増しています。そんな中、親子で通える場を“開き続けてきた”こと、本当によかったなと思います。お母さんが安心して笑顔でいられること。子育てを楽しめること。そのために、何が必要？と一緒に考え共に成長していける仲間がいることに幸せを感じています。

スーパーバイザー
宮田真理子（まりちゃん）

　プレイセンターには「子どもと一緒に、親もまた育っていく」という大切な理念があり、子育てを通じて成長できる場です。私自身も41歳になりますが、この活動に関わることで自身の未熟さを日々発見し、少しずつですが成長しているなと実感しています。いつもいつも元気いっぱいに泣いたり怒ったり笑ったり、エネルギーに満ち溢れた子どもたちを見ていると「私も頑張ろう！」と何度でもパワーが湧いてきます。
　これまで助成金を財源に活動を継続してきましたが、今年度で助成が終了します。今後は人、資金をどのように確保していくか、いよいよ挑戦が始まります。子育てがこんなにも難しい時代において、学び合い支え合える仲間ができることがどれほど価値のあることか。活動を維持発展していかれるよう、これからも地道に、丁寧に活動していきたいと思います。趣旨にご賛同いただき、ご寄付やご協力をどうぞよろしくお願いします。

スーパーバイザー
嶋野奈津美（なっちゃん）

　「知識があれば、子育ては楽しくなる」この言葉を耳にしたとき「これだ」と思いました。
　ワンオペ育児、アウェイ育児、超情報化社会に加え、コロナ禍。誰ともつながれず、自分だけでなんとかしなきゃと追い詰められているお母さんをよく目にします。その上で「赤ちゃんの日」をお母さんと赤ちゃんのための居場所づくりのみならず、正しい情報を伝え、自分で取捨選択できるように応援したいと考えました。昨年１０月よりフリートークの場に講座をプラス。何事も方法が一つだけしかないと思うと苦しいですが、２つ３つ引き出しがあれば、それだけで楽になります。大変な子育ての、その一瞬でもお母さんが笑顔になれるような関わりをしていきたいと思っています。

スタッフ
築紫悠（はるかちゃん）

5.メディア記録

◀十勝毎日新聞2023年2月15日掲載

月曜 健康 | 火曜 シニアライフ | 教育・子育て | 木曜 くらし・悠遊 | 金曜 本・文化 | 土曜 パズルランド

歌って作ってお絵かきして

特色豊か子育てサークル

帯広市子育てサークル数が1月31日、市保健センターまとめで、31組の親子が参加し、各サークルが活動内容や特色などを説明した。家にこもりがちなパパママの皆さん、親子で楽しめるサークル見つけてみませんか？

手話サークルビンゴーでは手話をつけながら歌を披露した

市内で五つ活動

市内には五つの子育てサークルがあり、0歳から未就学児の子どもと保護者が対象。この日は「親子クラス」はムーマブルで「プレイセンター」に「赤ちゃんクルビンゴー」「ファンチャイルド」の4団体が参加した。

親子クラスは、わらべうたに合わせて（3）と遊び、知的な発達を促す。ムーマブルは、ねんねから歩き始めの子どもを対象に、親子で楽しめる遊びを行う。

プレイセンターは、体を動かしたり、歌をうたったりして、親子で楽しめる。

ファンチャイルドは、手話を通じて、子どもの言葉の発達を促す。

日本語の音節を意識する遊びを行う。

参加者の中にはパパの姿も

思い切り遊べる

幼児や赤ちゃんを連れて参加した。

（3）は、2歳の長男が活発なので、思い切り遊べる場があるのはありがたい。と参加した小林さりさん（35）は、「2歳の長男が活発なので、思い切り遊べる場があるのはありがたい」と同市の佐藤さん。

手話触れる場も

4月に新たに生まれるサークルビンゴーは、手話を通じて、子どもの言葉の発達を促す。

ファンチャイルドは、手話を通じて、子どもの言葉の発達を促す。年一回、イベントごとにまとめた動画作成もちゃん（1）と参加した伯足新さん（39）は「年齢の近い子どもと遊ばせたいと思っていたので、参加してよかった」と参加を喜ぶ。

電子版に複数写真掲載

▼十勝毎日新聞2022年11月23日掲載

月曜 健康 | 火曜 シニアライフ | 教育・子育て | 木曜 くらし・悠遊 | 金曜 本・文化 | 土曜 パズルランド

乳幼児預け先 同居家族以外「ない」34%

保護者の「孤」解消急務

NPO法人ぷれいおん・とかち（今村佳理事長、帯広市西4条南5）と帯広大谷短大が行った十勝の子育て事情を探る保護者アンケートで、子どもの預かり先がない家庭が多いことが分かった。子育ての相談先も配偶者や友人など、もっぱらつながりのみを頼りにしている傾向があり、自治体の相談窓口は「どこか分からない」という声も。同法人は「頼れるものでも用できる預かり先や相談窓口が不足している」と課題を挙げる。（村瀬恵理子）

「ぷれいおん」と帯大谷短大調査

十勝の乳幼児の子育てに関する調査

■子育ての相談先（複数回答）

配偶者	67.7%
母親の友人・知人	54.7%
親・きょうだい・親戚	54.7%
国の先生	52.7%
SNS	6.8%
市町村の子育てサービス窓口	2.8%

■同居家族以外でみてくれる人の有無

回答数：251人、対象：0～5歳までの子どもの保護者。

「連鎖や組織をなくし、孤立する保護者がでないようにしたい」と嶋野さん

嶋野副理事長「地域全体でサポートを」

「十勝における幼児の子育て」に関する調査」は今年3月、子育て環境を色彩し、支援法を作る狙いで実施。帯広市や幕別町などの未就学児の保護者を対象に行い、251人（父母や親戚）が92・7%で最も高かった。

「預け先がない保護者にとって一時保育やファミリサポート（ファミサポ）が頼りの綱だが、予約して利用したい日に使えないことも。利用までの事前説明や登録などに時間が必要になることから、「負担に感じる」などの声も上がった。同法人理事長の嶋野奈美さんは「利用方法や利用者の声なども強い発信が必要で、ファミサポでは（支援の組み手となる）提供会員の拡充も不可欠。行政と協働で地域全体が子育て世帯をサポートできる環境にしていきたい」と強調した。

子育てに関する相談相手の設問（複数回答）では「配偶者」が67・7%で最も高く、続いて「母親の友人・知人」が56・2%だった。「市町村の子育てサービス窓口」は2・8%で、「人が集まる場所が必要」などの相談できる場がほしい」などの声があった。嶋野さんは「誰でも、いつでも」という開かれた相談窓口が不足していると指摘する。

アンケート結果は同法人ホームページで閲覧できる。希望者には無料で配布している。

育児の不安解消 プログラム提供

同法人では、赤ちゃんのいる暮らしに慣れず、寝かしつけや離乳食などの悩みや不安解消につなげる「赤ちゃん0日」プログラムを月2回、用意している。詳しくはホームページ「URL」参照。問い合わせは電話（0155・36・0560、平日午前10時～午後3時）で。

▲北海道新聞
2023年
2月21日掲載

「こども家庭庁」専門家らが解説

来月4日に講演会

帯広市内の認定NPO法人「子どもと文化のひろば ぷれいおん・とかち」は、子どもの権利や子育てについて考える講演会「こども家庭庁で子育てはどう変わる？」を3月4日、同市のとかちプラザ（西4南13）で開く。子育て関係者らの参加を広く呼び掛けている。

こども家庭庁が4月に発足し、こども基本法が施行されることから企画した。

講師は2人。NPO法人こどもの足立陸子理事長は子どもの権利や遊びの必要性を解説。流通経済大社会学部・千葉県松戸市）の佐藤純子教授はこども家庭庁やこども基本法を紹介する。

午前10時～正午。定員120人。参加費500円。前日までに申し込む。空きがあれば当日参加も可。

無料託児が10人分あり、2月27日までに申し込む。申し込みは、ぷれいおん・とかち、電話0155・36・0560へ。（小坂真希）

◀十勝毎日新聞
2023年
3月6日掲載

「縦割り 克服に期待」

流通経大 佐藤教授 こども家庭庁を紹介

講演をした佐藤教授

子育て講習会「こども家庭庁で子育てはどう変わる？」（NPO法人ぷれいおん・とかち主催）が4日、帯広市内のとかちプラザで開かれた。会場と配信合わせて約110人が参加し、子どもの権利や幸せについて考えた。

流通経済大学（千葉）で子育て支援に関する研究をする佐藤純子教授が講師として登壇した。

佐藤教授によると、4月1日に創設される「こども家庭庁」は子どもが自立した個人として健やかに成長できる社会の実現に向けて、子どもと家庭の福祉や保健を向上させる任務に当たる。これに伴い、子どもの人権を守る目的で「こども基本法」が施行される。

厚労省や文科省、内閣府の業務の一部を同庁に移管することで「縦割り行政を克服し、切れ目のない包括的な支援が可能になる」（佐藤教授）という。

また市区町村に「こども家庭センター」の設置を進めていく。従来の子ども家庭総合支援拠点（児童福祉）と、子育て世代包括支援センター（母子保健）を一本化することで、「1カ所で子育て・家庭の問題が解決する場所」（佐藤教授）と期待されている。

佐藤教授は「大人の私たちが地域で協力しながら子どもの権利を守らなければならない」とした上で、「子どもの声に耳を傾ける『子どもコミッショナー』など」いく必要がある」と指摘した。

参加した市市民福祉部こども福祉室の佐藤泰孝室長は「市には子育てサークルは多くあるが、それらと市民をつなげることが役所のやるべきことだと感じている。仕組みをつくっていけたら」と感想を述べた。

講演は、視聴料500円でアーカイブ視聴もできるようにしている。問い合わせは、ぷれいおん・とかち（0155・36・0560）へ。（近藤周）

ワンストップ窓口 子育て相談に必要

帯広で講演会

子どもの権利や子育てについて考える講演会「こども家庭庁で子育てはどう変わる？」が、帯広市のとかちプラザで開かれた。

4月にこども家庭庁が発足することにちなみ、4日に行った。市内の認定NPO法人「子どもと文化のひろば ぷれいおん・とかち」が企画。同庁は厚生労働省や文部科学省、内閣府のうち子どもに関する医療、保健、療育、福祉、教育を一元化。担当大臣を置く。

子育て支援に詳しい流通経済大社会学部の佐藤純子教授が講演し、国の変化を踏まえつつ、虐待や貧困など子どもを取り巻く現状に触れて「ワンストップで子どもや家庭の相談をできることが重要だ」と話し、地域内で信頼される相談窓口確保の大切さを強調した。

講演会の動画はウェブ上で配信中で、500円で視聴できる。問い合わせはぷれいおん・とかち、電話0155・36・0560へ。（小坂真希）

虐待や親子の孤立など、子どもを取り巻く現状を説明する佐藤教授

▲北海道新聞2023年3月8日掲載

6.メンバーの声

『にじっこ』に出逢い、ぷれいおん・とかちの会員になった我が家。親にも子にもたくさんの出逢いがあり、一緒にいろんな体験をしていくうちに関係が深まります。遊んで学んでつながって、『にじっこ』の可能性は無限大♡親子で豊かな時間を過ごしています♪

夫の転勤で帯広に。にじっこに行けば「いつもの」メンバーがいる、ということにどれだけ助けられたかわかりません。1人なら怒ってしまうこともにじっこでは笑い話になるし、手を貸してくれる仲間もいます。娘にとっても私にとっても安心できる場所になっています。

初めての育児、初めての転勤で不安な気持ちを抱えたまま帯広に越して来ました。そんな中で出会ったにじっこ。私も子どもも一気に世界が広がりました。今では優しく温かい仲間の中で安心して育児ができています。家族のように育児の悩みを気軽に相談できたり、子どもたちとの関わり合いの中で親も子も学ぶことがたくさんあり、にじっこに入らなければ出来なかった経験をたくさんさせて貰っています。居心地の良い大好きな場所です。

にじっこ参加者　まとめのアンケート

あそびセッション

・にじっこ総会でみんなで意見を交わしながら、気持ちがたかぶって泣いてしまった経験が特に印象に残っています。にじっこという素敵な場所、そして仲間たちに会えて良かったと心から思いました。 個人的に気になったことは、咳などの風邪の症状があまりに酷い子はなるべく休ませてあげたほうが良いのではないかなと感じました。もちろん事情もあるかとは思うのですが…。皆が積極的に関われる場所というのが初めてで衝撃的でした。こんなことも可能なのか…と。 それから、関わっている人それぞれが魅力的なことにも驚きました。 自然と話してみたいと思える方たちばかりです。
・私自身我が子のそばで様子を見守ることが多かったので、親子ともにもっとまわりのお友だちと関わることができるようになっていったらいいなと思います。(母もより見守り合いに参加できるよう。)
・にじっこの場に乳児期の赤ちゃんが居てくれることの有り難さ。うちの子は一人っ子だから、赤ちゃんが来てくれるのはとってもありがたいよ！うちの子は遊べないから…と思っても、文字通り揉まれるのが嫌でなければママのリフレッシュのために出てきて欲しい。私たちも癒されるし、子どもたちにとっても赤ちゃんが身近にいてくれるのはありがたい事なんだよ♪
・母子一対一(支援センターなどは自然とこうなってしまう)ではなく、みんなでわが子たちを見合うスタイルがとても良いと思う。子どもたちも信頼できる大人がこんなにいるんだって安心感が広がっていくし、大人もわが子だけと向き合う時間よりも楽しさが増す。子どもたちも自由にやりたいことをやって、ケンカも大いにして、子どもたちなりの１つの社会をつくっているように感じる。大人もおおらかに構えるスタイルをこれからも大切にしていかれたら良いなと強く感じる。
・絵の具遊びや小麦粉粘土遊びなど、家でやるには準備や片付けなど億劫に感じてしまうことも、みんなでやると楽しいばかり。子どもたちものびのびと、仲間に刺激をうけながら楽しんでいる様子が見られてありがたいです。
・小麦粘土が大好きでした。
・我が子以外の子が遊んでいる様子を見るのはとても刺激があっておもしろいです。参加している全員が刺激し合い、影響し合っているのだなと思います。我が子は毎回同じおもちゃで遊びますが、そこに関わってくる子や大人が変わることによって少しずつ遊び方に違いが出ていて、面白いです。
・友だちとの関わりに成長が見られて嬉しかった。

学び合い

・２回しか参加出来なかったけれど、３０分間の母子分離はリフレッシュできた。遊びの観察では子どもたちのいろいろな行動や様子が見れて楽しかったです。
・学びの会には参加したことがありませんが、 松岡先生相談会や、最近どう？などで、ほかのママたちのお話から得るものが多く、具体的なグッズから心のスタンスまで、良いと思ったものはとりいれさせてもらっています。
・学び合いという時間が設けられていることがまずとても素敵だなと思いました。さまざまな意見を聞いたり、自分の考えをアウトプットしたりできて勉強になりました。
・わかりやすい遊びをしていなくても、みんなを観察しているのも遊び
・学びの時間にわが子を別の場所でみてもらうというスタイルのときに、私も離れることにドキドキしてしまい大きな不安(ずっと泣いてたら嫌だな。その後のわが子の大泣きやかんしゃく、グズりも嫌だな、等)があったので 無理ないスタイル(一緒にいて話してもいいよ)にしてくれたのはホッとしました。
・その日に参加できなくても、まりちゃんが出してくれるお便りがわかりやすくて、とっても有り難いです。
・学びをみんなで共有できたことが嬉しかった。
・母子分離は少し勇気が入りましたが、やってみることで子も私も成長できた部分があったと思います。
・参加できていません。

子育て講座

- 子育て講座は参加しませんでした。次の機会にぜひ参加してみたいです。
- 都合がつかず参加できなかったのですが、後日振り返りの時間を設けていただき内容を聞くことができました。当日参加できなくても学ぶ機会があるのでありがたいです。
- 日程が合わず実際に講座に参加することができませんでしたが、是非今後参加してみたいです。
- まるまる育児は赤ちゃんがいる全てのお母さんに知ってもらいたい。
- いろんな講座を受けることは、自分の考えを客観的に見て整理することになったり、正しい知識がお守りになったり、自分の学びを深めることができます。託児をしていただいて学べる時間は、ママたちにとって大変有意義な時間になっていると感じます。
- 託児を利用できて、より濃い時間をもつことができました。
- とても勉強になりました！

子育て相談会

- 親身に相談に乗ってくださって、自分の中でモヤモヤして悩んでいた気持ちがスッと前向きになりました。毎回力強く広い優しさで包み込んでくれる先生で本当に感謝しています。
- 自分では考えつかない気持ちの切り替え方や、プラスの考え方などをアドバイスしてもらえて、毎回、相談して良かったと思える時間をいただいています。 ありがとうございます。
- 松岡先生に2つも3つも（場合によってはもっと？）相談したいことがあるのですが、時間の関係上いつも1つに無理矢理絞っているので、もっとお話できたらなぁと思っています。
- 日程が合わず実際に参加することができませんでしたが、是非今後参加してみたいです。
- 自分だけではなく、いろいろな方の悩みや温かいアドバイスを聞けて今後の育児の勉強になりました。
- 悩みを聞いてもらえるのは、凄く安心感がある。
- 他のママさんのお話(前半後半に別れるけど)も参考にしたいので、もし可能であればマイクなどしてお部屋全体に話している内容が聞こえるようにしてもらえたらとても嬉しいです。子どもに手を取られて、なかなか話の輪に加われなくて、困った経験もあるため。

- 誰かの悩みも隣で聴いてるだけで学びになったりします。松岡先生のお話は、とても有り難いです。ただ、何でも丸ごと自分の子にあてはめず(押しつけず)やはり一人一人ほんとうに違う、ということをしっかり意識して我が子と向き合おう！と大切にしています。
- 他の人の相談も聞けてそれが良かった。
- 人数が多くて相談できなかった時もありましたが、悩みを聞いてもらって、言葉をいただくことで心がスッと落ち着きました。
- いつも安心できます。

森のにじっこ

- はぐくーむは四季によってさまざまな景色が見られたり、自然のなかでのびのびと遊べて素晴らしいです。みんなで協力しておこなったハロウィンパーティー楽しかったです！
- 冬だしとか、寒いしとか、暑くて熱中症こわいし、とか外遊びを控えた方がいいのかなと思うシチュエーションでも、にじっこのママたちは外遊びに積極的なので、そっか、外で遊ばせよう！となるし、自分も一緒に子どもと遊んで、毎回いい気持ちになったり、自然の中での発見があったりします。
- 季節の変化を感じることができたり、自分では考え付かない遊びが見つかったり、お友達と一緒だからこそできることもたくさんあって親子ともに楽しかったです。自分だけで子どもを連れて森に出掛けることはなかなかないので、はぐくーむの活動がとてもありがたいです。
- 自然に触れ合えるのが良い！
- ヒヤリハットが一番多かった印象。森でのルールや帰りがけに気がゆるむ時に、ケガが増えることなど、今一度リマインドしたいなと思う。
- まず、はぐくーむという環境を知れて良かったです。その日、我が子が何にはまるかはわかりませんが(室内だけかもしれないし、遊具だけかもしれないし、森の散歩かもしれない)、いろいろな選択肢があること、子どもの興味関心が広がる環境であることが魅力です。

- はぐくーむのブランコ周辺で遊ぶことが多かったので、森の中をもっとお散歩したかった。
- 森での活動、本当に楽しいです！春夏秋は季節の変化を感じることができ、それをみんなで一緒に共有できることが本当に幸せだと思います。寒くなってくると外に出るのが億劫になってしまいますが、にじっこのみんなとなら外に出ようという気持ちになれるので重宝しています。
- 自然の中で遊べる貴重な機会。

預かり合い

・まだ我が子は預けた事はないのですが、預かり合いにチャレンジした子たちの成長に感動しました。そのうち、私たち親子もチャレンジしたいなと思っています。
・自分の子を預けたことはないのですが、子どもたちの切り替える瞬間などが見れて、今後自分の子が幼稚園に通いだしたらこんな感じなのかな？などと学べることがたくさんありました。
・預かりのお子さんが、お母さんがいない中いつも通り楽しんでいる様子にびっくりしました。 普段のにじっこが安心できる場になっているのだなぁと感じました。
・SVに頼る部分が多いかも知れませんが、日々みんなで見守りあっている、会員制だから関係を深めやすい、にじっこだからできるチャレンジだと思います。子どもを預けることに初めてチャレンジする練習？にもオススメです。
・預けた我が子の成長を実感できて嬉しかった。
・息子は預けられている子のお母さんの不在を非常に気にして、〇〇くんのお母さん、どこ？と聞いてくるようになりました。預けたことはありませんが、皆で子どもを預かることが出来るのはとても大切なことだと思います。

自主運営

・９月から代表メンバーで、特に運営側として関わる機会も多かったのですが、無理なく楽しみながら参加できました。にじっこのメンバーも作業を手伝ってくれたり嬉しかったです。
・他のママに圧倒され、消極的な自分が出ています。 自分ももっと積極的に関わりたいです。
・運営してくださっているみなさんには感謝しかありません。これから自分もできることを、できる分だけ恩返ししていきたいです。
・やって良かった！みんなやってみて！
・自主ではなく協働？何か他の表現があうかなぁと。でも、自主でもいいですね。自主的に関わるための練習ができる場所になっていると思います。
・みんなで考えながら作り上げていくにじっこでこれからもあって欲しい。
・息子2歳で下の子を出産。2歳差育児はにじっこなしには考えられませんでした。周りの皆に助けられながら、子どもたちを可愛がってもらいながらなんとか1年が経とうとしています。本当に感謝しかありません。SVという存在がいることで参加しやすかったことは間違いありません。ありがとうございます。

自由記述

・親子共に、毎回にじっこへ楽しみに参加しています。お友だちとのやりとりや、家庭ではなかなかできないいろいろな経験をさせてもらったり、私の精神的な面でもたくさん支えていただいています。いつもありがとうございます。この素敵な場所をたくさんのお母さん子どもたちに知って欲しいし、仲間が増えたら嬉しいです。これからもみんなで居心地の良いにじっこの場所を作り上げていきましょう。
・長い間通わせてもらっています。たくさん助けてもらいました。楽しい親子関係が築けているのも、にじっこをはじめ、ぷれいおんの皆さんに出会えたからこそと思っています。これからも、お母さんと子どもが元気に過ごせる場所であって欲しいです。
・にじっこには派閥なし、と事前にどこかで読んで、そんなことってあるのかな？ママが何人も集まるのだから、仲良しグループなどできているのでは？と思っていましたが、にじっこに参加してみたら本当にない！ 初めてでも、まだ数回しか参加したことがなくても、どのママも気持ちよく接してくださって、本当に居心地が良い場所です。
・子どもはもちろん、一緒に参加する大人も大切にしている温かいサークルだと思います。 親子ともに成長できる場所で、入会してよかったです。いつもありがとうございます。
・良い意味でテキトー育児できるようになるよ。 仲間たちがいろんなテキトーを教えてくれる(^^)
・にじっこに入って良かった事はいろいろな方と世間話ができる事です！ママさんトークだけじゃなくて、気軽にいろんな話ができて嬉しいです。
・大人とお話できる空間がありがたい。他愛もない話から、美味しいお店や、病院の事など、いろいろな情報を知る事ができてよかったです。
・すでににじっこを卒業しているわが子を久しぶりに連れて参加しました。保育所に行けていない日々が続いていたこともあり、私もわが子も疲れていたため。皆、始めからたくさんわが子に話しかけたりしてくれたり、一緒に遊んでくれたり。わが子の心からの満面の笑顔を見たのが久しぶりで、少し泣きました。こんなにもあたたかいメンバーに囲まれていることをとても幸せに思います。
・子どもにも大人にも、友だち・仲間ができる場所。ただ遊ぶだけじゃなく、悩みを打ち明けたり、学んだり、いろんな時間を共有しているからこそ、関係が深まる。安心感や信頼感が生まれる。家族や職場以外に誰かと強く楽しくつながれる場所って、なかなかないのでは？？と、にじっこの活動を頼もしく感じます。 息子のために加入しましたが、間違いなく私のためになり、そして、上の娘にも友達ができたり、居心地がよくて楽しくて行きたい場所になりました。感謝です。見守り見守られながら 子どもたちの成長を一緒に感じませんか？
・いつも心許せる仲間たちが子どもを見守ってくれているという安心感はなかなかにじっこ以外では得られないのでは？と思います。にじっこのおかげで私の育児は成り立っています…！感謝！
・みんなが温かく、子育ち親育ちの同じ理念をもち安心できる場所です。子どもも親も安心できます。

子育て講演会「こども家庭庁で子育てどう変わる？」にてプレイセンターにじっこの活動発表を実施。メンバー2名が発表した内容を掲載します。

出産後、半年が経ったころに十勝へ引っ越しが決まりました。この土地で生活することが初めてであり、そして何より子育てというものが初めてで、いろいろなことを調べたり聞いたりしながら、一人で必死になって日々生活していたことを思い出します。

ある日“にじっこ”というサークルの存在を知りましたが、「子育てサークル」というものがどのようなものなのか分からず、なかなか連絡できずにいました。「どうして連絡できなかったのか」と考えてみましたが、当時の私にとっては、「サークル」というものがあまり身近に感じることができないものだったのかもしれません。ある日、思い立って電話し見学に行くと、元気で笑顔のスタッフの方々、お母さんたち、元気で夢中になって遊ぶ子どもたちが出迎えてくれました。そこは、初めて出会った場所ではないような、懐かしい安心感のある場所で、何か「ほっ」としたことを覚えています。

にじっこでの子どもたちは、いつも自分の好きなことを思いっきり楽しみ、大人たちは一人一人を大切にしながら、見守ってくれています。そして、遊びの中で友だちと関わり、いろいろなことを経験し学んでいるのだな、と感じます。大人たちに見守られ、応援され、愛情を注いでもらえる、そんな安心して過ごすことができる場所だからこそ、息子も「やってみよう！」と挑戦したり、失敗したり、じっくり考えたり…と、いろいろなことに“夢中になる姿”がたくさん見られるようになりました。 そして、私が何より感じるにじっこの魅力は、子どもたちだけではなく“大人たちも夢中！”ということです。にじっこでは、子どもたちのために、「どうしたらいいかな？」「こんなことしてみようか？楽しそうだね！いいね！」「ありがとう！」「それやってみようか！」「いいと思う！」と、こんな言葉が部屋のあちこちで飛び交っています。時に子どもと同じように絵の具だらけになり、大笑いをしたり、雪の中に飛び込んで一緒になって楽しんだり。うれしい、楽しい、悲しい、いろんな気持ちを一緒になって受け止めてあげたり。子どもたちだけではなく、大人も夢中な場所、それがにじっこでした。私はそんなにじっこの仲間たちの姿に、とても勇気をもらい、心が軽くなり、うれしくなったことを覚えています。

私はまだにじっこに参加して間もないですが、ここに通うことで一人で抱えていた子育てというものが「楽しんでいいもの、夢中になってやっていいもの」と思えるようになりました。それは一緒に夢中になってくれる仲間がいて、そんな時間を過ごさせてくれる場所ができたからかもしれません。そして、そんな自分の変化がまた子どもへと伝わっていくのかもしれないと感じました。

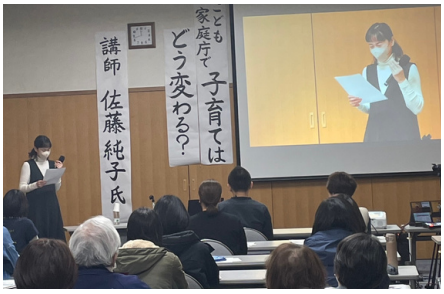
これからも仲間と一緒に子育てをしていくことで、自分や子どもがどう成長していけるのか、とてもわくわくしています。そしてこのような場所と時間を与えてくださったこと、そして一緒に過ごしてくれる仲間にとても感謝の気持ちでいっぱいです。

●活動歴１ヶ月、2歳児の母

ぷれいおんとかちの会員になって１年３カ月になります。娘が２歳になってすぐのタイミングで入会しました。４年前に関西から帯広に引っ越してきました。知り合いのいない中で初めての子育て、実家の家族や友人からは「元気にすごせていれば大丈夫」「よく寝てよく食べていれば大丈夫」と声をかけてもらっても、「何時間寝て何グラム何を食べれば大丈夫なの？」「そもそも元気ってどんな様子？」といった具合。自分でも驚くほど何もかもがさっぱりわからないうえ、あふれすぎているたくさんの情報に混乱しました。長期不在の多い夫なので、ほぼ１対１の毎日。見よう見まねの育児ができない、今ここに一緒に子育てする人がいない、「こどもまんなか」とは程遠い、娘と私二人だけを繋いだ直線のようでした。ぷれいおんに入会してからは大人たちが手を取り合って円陣を組み、そのまんなかに子どもたちがいる。そんな日々を親子で過ごせています。

ぷれいおんには、見守りの目がたくさんあります。おもちゃの取り合いも、派手に汚れることも、ハラハラする遊びも「お互い様」「どうなるか見守ってみよう」と本当に危険な時以外は制止しません。森の活動では、ノコギリを使ったり火をおこしたり、見たことない虫や葉っぱを触ってみたい等いろんな「やってみたい」という声があれば、職員さん見守りのもとやらせてくれます。自分一人だと「危ない」「やめて」「このおもちゃはこう遊ぶ物だよ」と決めつけてしまうことも、仲間がいると心に余裕が生まれ、どっしりと見守れるようになりました。

親たちには円陣を組むという役割があります。学び、発言する機会がたくさんあります。その役割が自分の居場所になり、安心して地域社会で子育てできるようになりました。こどもにとっては、どこを向いても見守りの目・優しさ・愛情が感じられる「自分はまんなかに居る」感覚が、なんだか自信満々で幸せそうな姿に繋がっているのかなと感じています。



●活動歴１年3ヶ月、3歳児の母

2023年3月1日「めでたいな会」

発行・編集

認定NPO法人 子どもと文化のひろば
ぷれいおん・とかち

〒080-2470
北海道帯広市西20条南5丁目18-2
tel/fax　0155-36-0560(平日10-15時)
メール　info@play-on-tokachi.net
LINE　@playontokachi
HP　http://www.play-on-tokachi.net/

グッドガバナンス認証
2020G(0)0026

2023年3月発行